

(様式1)

青森県立保健大学と団体との協働事業令和元年度協働事業評価シート

■協働事業概要【公開】

事業名	あおり「杖なし会」介護予防事業														
大学担当教員／課	看護学科 准教授 千葉敦子 / 地域連携推進課														
団体	あおり「杖なし会」 会長 佐々木弘														
事業内容	【事業目的】 高齢者を対象に筋力向上トレーニングを中心に実施し、高齢者の健康維持・増進・介護予防及び参加者相互の親睦と福祉・文化活動を行うとともに、大学の教育・研究活動に協力する。														
	【内容】 ① 筋力向上トレーニングの実施 大学施設を利用し、週2回(月曜日・木曜日)10時から12時に筋力向上トレーニングおよびバランス練習等を実施する。専門スタッフとして理学療法士が筋力向上トレーニング指導を行い、保健師が健康管理を行う。ボランティアは筋力向上トレーニング機器の操作等、サポートを行う。 ② 体力測定の実施 年に3回、参加者の体力測定を行い、専門スタッフ及びボランティアが測定者として従事する。 ③ 大学の教育・研究活動への協力 ・学生及び教員の研究の対象者としての協力 ・学生の実習及び演習の対象者としての協力 ・その他大学の教育・研究事業への協力														
	【役割分担】														
		<table border="1"><thead><tr><th>事業項目</th><th>甲の役割</th><th>乙の役割</th></tr></thead><tbody><tr><td>青森県立保健大学を会場とした筋力向上トレーニング及び体力測定の実施</td><td>1 会場の設営、原状回復 2 甲スタッフによる運営 3 参加者の安全確保 4 一般ボランティアの募集・支援</td><td>1 必要な大学設備を無料で提供(光熱費以外の電話機、コピー機等ランニングコストが発生するものは除く) 2 会場設備の管理 3 学生及び一般ボランティアの募集・支援 4 教員による専門知識の提供・技術的支援</td></tr><tr><td>大学の教育・研究活動への協力</td><td>1 連絡調整、参加者への協力呼びかけ</td><td></td></tr><tr><td>その他事業の実施にあたり必要となること</td><td>1 参加者のニーズを踏まえた事業展開の検討</td><td>1 情報公開及び説明責任に関する業務</td></tr></tbody></table>	事業項目	甲の役割	乙の役割	青森県立保健大学を会場とした筋力向上トレーニング及び体力測定の実施	1 会場の設営、原状回復 2 甲スタッフによる運営 3 参加者の安全確保 4 一般ボランティアの募集・支援	1 必要な大学設備を無料で提供(光熱費以外の電話機、コピー機等ランニングコストが発生するものは除く) 2 会場設備の管理 3 学生及び一般ボランティアの募集・支援 4 教員による専門知識の提供・技術的支援	大学の教育・研究活動への協力	1 連絡調整、参加者への協力呼びかけ		その他事業の実施にあたり必要となること	1 参加者のニーズを踏まえた事業展開の検討	1 情報公開及び説明責任に関する業務	
事業項目	甲の役割	乙の役割													
青森県立保健大学を会場とした筋力向上トレーニング及び体力測定の実施	1 会場の設営、原状回復 2 甲スタッフによる運営 3 参加者の安全確保 4 一般ボランティアの募集・支援	1 必要な大学設備を無料で提供(光熱費以外の電話機、コピー機等ランニングコストが発生するものは除く) 2 会場設備の管理 3 学生及び一般ボランティアの募集・支援 4 教員による専門知識の提供・技術的支援													
大学の教育・研究活動への協力	1 連絡調整、参加者への協力呼びかけ														
その他事業の実施にあたり必要となること	1 参加者のニーズを踏まえた事業展開の検討	1 情報公開及び説明責任に関する業務													
実施(契約)期間	平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日 【 継続事業 ・新規事業 】														

(様式1)

予算額	【杖なし会】 スポーツ保険料:21,250円 謝金:1,920,000円 消耗品:50,000円 【杖なし会参加者負担】 スポーツ保険料:96,000円 【県立保健大学負担】 ボランティア交通費:336,000円
実績 (※事業継続中の場合は、12月1日時点の実績を記載)	別紙参照

■プロセス評価【公開】(実施中の場合は、12月1日時点での評価)

※下記の項目について、該当する番号を評価欄に記入してください。

評価… A:よくできた B:ある程度できた C:あまりできなかった D:できなかった E:該当しない

「E」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

		評価欄		
		団体	大学	
事業実施前	1	協働で事業を実施する目的を両者で確認したか。	A	A
	2	事業の成果目標を協議のうえ決定したか。	A	A
	3	具体的な企画内容や実施内容を協議のうえ決定したか。	A	A
	4	事業を進めるための役割分担を協議のうえ決定したか。	A	A
	5	成果物(著作物)の帰属や公表、また、その活用の方法について協議したか。	A	A
事業実施段階	6	事業の進捗状況や必要な情報について共有化できたか。	A	A
	7	相手の得意な分野や弱い分野を理解し、協力し合いながら事業を進めることができたか。	A	A
	8	事業を進めるにあたり状況の変化に応じて、協議しながら柔軟な対応ができたか。	A	A
	9	お互いの機能を生かし、必要に応じて市民への参画を呼びかけたか。	B	B
事業成果や波及効果	10	事業の成果目標は達成できたか。	A	A
	11	協働で事業推進することによって、単独で実施するよりも成果が上がったか。	A	A
	12	協働で事業推進することによって、組織にとって何か変化をもたらしたか。	A	A
	13	事業の結果(成果)などを広く情報提供したか。(予定がある場合も含む)	A	A
	14	市民自らが地域の課題解決に取り組む機運が芽生えるなど、従来よりも市民の参画機会が広がったか。	A	A
	15	経費の見積は適切だったか。	A	A
	16	トラブルが発生した際の準備や対応は適切に行われたか。	A	A
総合評価		A	A	

(様式1)

「E:該当しない」を選択した場合は、その理由を記入してください。

団 体	
番号	理 由

大 学	
番号	理 由

■成果と課題点【公開】

団 体	
協働することで成果があった点	課 題 点
<ul style="list-style-type: none">・学生の研究に会員が被検者として協力し、研究の一助になれた（理学療法学科4年生の卒業論文に20名が協力、理学療法学科大学院生の博士論文に15名が協力）。・2年に一度のベレノバ大学生とのスポーツ交流をきっかけにメリッサ先生による会員のための英会話 English lunch が実現した。 (初回22名参加、計6回実施)・青森県立保健大学の7月公開講座に会員20名が参加した。・学内の学生ボランティアの参加があった。 (理学療法学科2年生2名)・青森刑務所から教育担当の刑務官2名が見学・体験に来られた。・今年の大学の避難訓練が会の活動日であったため、会員も一緒に参加できた。・体育館線路側西口の非常口の扉が修理された。	<ul style="list-style-type: none">・避難訓練の放送が体育館の中では非常に聞き取りにくかった。・現在、月曜木曜各2時間で約40の方がトレーニングを行っている。これ以上の方を受け入れるのが会場の時間的制約及び人数的に安全性の面でも難しい現状にある。・長年ボランティアとして協力して頂いているみなさんが高齢化してきている。

(様式1)

大 学	
協働することで成果があった点	課 題 点
<p>協働事業における大学の役割である以下の4つについて評価する。</p> <p>1 必要な大学設備を無料で提供(光熱費以外の電話機、コピー機等ランニングコストが発生するものは除く)</p> <p>→大学設備を無料で提供できた。大学主催の避難訓練に杖なし会が参加することができ、避難経路の確認ができたことは成果であった。</p> <p>2 会場設備の管理</p> <p>→雨漏りやドアの破損等、会場についての不具合は、杖なし会から即座に情報提供を受け担当部署に連絡し修繕につながった。</p> <p>3 学生及び一般ボランティアの募集・支援</p> <p>→学生によるボランティアの参加が継続的に行われた(理学療法学科2年生2名)。</p> <p>4 教員による専門知識の提供・技術的支援</p> <p>体力測定時にスタッフとして関わり、正確な測定と評価、分析に努めることができた。</p> <p>その他</p> <p>青森県立保健大学公開講座にて、杖なし会の活動紹介を行い、地域住民への公開に努めた。</p>	<p>・会場およびマンパワーの現状から、これ以上の人数を受け入れるのが困難な状況である。</p> <p>・長年ボランティアとして協力して頂いているみなさんが高齢化してきているため、ボランティア募集が課題である。</p>

(様式1)

あおもり「杖なし会」

令和元年度実績(12/1 現在)

実施期間:平成31年4月1日～令和元年12月1日

実施回数:4月～11月 月木9時～12時 計58回

利用者数:延べ2192人(毎月の活動報告書に詳細記載)

活動内容:年間を通し、マシン利用した筋力向上トレーニングと機能的トレーニングを行う

4月 体力測定

お花見

7月 総会

体力測定

青森県立保健大学公開講座に参加

8月 青森県民スポレク祭に参加

大学生卒業論文に協力(～9月)

メリッサ先生のベレノバ交流に役立つ英会話 Englishlunch 開始

9月 避難訓練

10月 バス遠足

11月 体力測定

大学院生博士論文に協力(～12月)